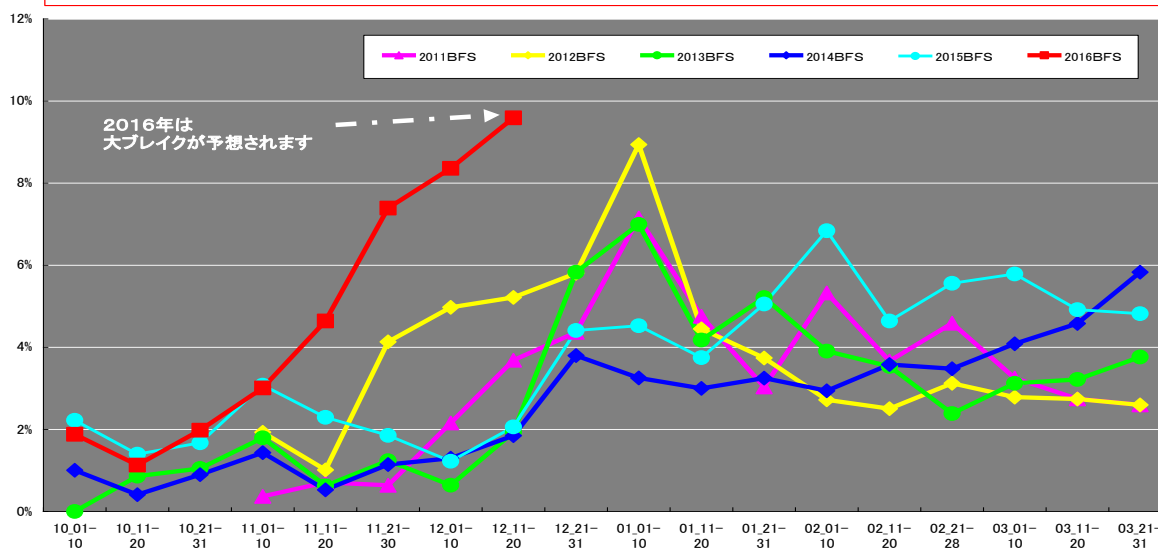


ノロウイルス検査（今年はGⅡ-2,-4が流行しています）

ノロウイルス食中毒は、GⅡ-17株が大流行すると予想されていましたが、実のところは4年ほど前確認されたものの、殆ど流行しなかった遺伝子変異したGⅡ-2が現在流行し猛威を振るっています。

過去5年間のBMLフード・サイエンスで検査した ノロウイルス陽性率

2016年はどのようなようになるのか？
(GⅡ-17がブレイクか？といわれていたが、実際はGⅡ-2, 4が巻き返している。Ⅱ-2は感染が局所的であったので市中免疫は殆どない)



これまでGⅡ-2株は、あまり流行していなかったため、我々の社会にはこのノロウイルス遺伝子への抗体保有者がほとんどいないといわれています。このため今シーズン11月中旬以降猛威を振るっています。例年ですと年が明ける頃に流行は下火になりますが、2017年は、正月明けも陽性率が高めで推移することが予想されます。

感染ルートは、人から人への感染で事故の90%程度を占め、自覚症状の無い不顕性感染者が、その半数を占めているという報告があります。飲食、ホテル業界、商業施設では少しも気の抜けない季節となりました。シーズン中は5~10%の検査陽性率が観察されています。スクリーニング検査を実施し保菌者を確実に見つけて事故防止にお役立てください。不顕性感染者でも、有症患者とほぼ同等のウイルス排菌量があるといわれ、ハイリスクな感染源となります。こうした潜在的リスクを制御するには検査以外に方法がありません。感染者は下痢、嘔吐、発熱後に自然治癒しますが、症状が改善した後も1~2週間は排菌が続きます。症状が治まったからといって直ぐに職場復帰せず、リアルタイム RT-PCR 等通知にある高感度な検査法による陰性確認をお願いします。

検査受託体制

リアルタイム RT-PCR 法(タカラバイオ:検査用遺伝子配列はBMLの特許を採用)で実施しております。検出感度は、大量調理施設衛生管理マニュアルで指示されているリアルタイム PCR 法(遺伝子検査)と同等な高感度な検査です。10月5日~翌年3月末までは、月~金曜日検査を実施しております。また、有症者の緊急検査等は、事前連絡を頂ければ土日祝祭日も対応させていただきます。

お問い合わせ先

株式会社 BMLフード・サイエンス 営業統括部
本社 : 〒161-0031 東京都新宿区西落合二丁目12番14号